

場 1「農」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
■クリーン農業の推進による環境保全と生産システムに係る信頼の確立 ・適正な施肥と防除により、化学肥料、農薬の使用抑制を進める ・各種認証制度の活用により、クリーン農産物の差別化とブランド化を促進 ・クリーン農産物を媒介した地域活性化 ・クリーン農産物を支える生産、流通、消費システムの構築

■安全・安心のニーズに応える農産物供給システムの構築と地産地消の推進
・農産物の安全・安心をデータとして、生産履歴を表示 ・地場農産物のカタログ化 ・農産物の生産現場を体験する消費者交流や教育現場への体験学習の導入 ・家庭や学校等における安全・安心農産物による食育の推進 ・都市・農村の交流促進と歩いて楽しむ農地の散策路づくり

場 2「山・森」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
■山がはぐくむ「水・土・森」の保全と育成 ・山の水源を包む流域の森林生態系を保全 ・計画的な造林・保育・間伐などの施策 ・「石狩川ルネサンスの森」の育樹（植樹・管理）を協働で進める

■居住空間における緑の保全と量の拡大
・街路樹など街なかの緑を協働で保全 ・個々の緑のボリュームアップと質の向上

■森林と人との共生、交流を進め、森林の多様な機能についての理解を深める
・森林の生物調査や自然生態系調査を市民参加で実施 ・森林浴や自然体験活動の実施と、自然ガイドの育成強化 ・そらぶちキッズキャンプの整備と、森林生態系体験のフィールドづくり ・歩いて楽しめる森の散策路づくり

場 3水の流域環境と物質循環を持続的に支える河川環境の物語
■河川の自然生態系を再生する物語のシナリオを描く ・水質浄化や河川流域清掃作戦のプログラムづくりと市民の参加 ・水質や水量、生物多様性、生態など多様な調査データを整備 ・河川流域で生活する人や土地利用の状況を調べて流域マップに集約 ・河川環境の保全と活用についてのシナリオづくりを市民・行政の協働で推進 ■水辺のふれあい活動を広め、活動の拠点づくりを進める ・流域の水辺再発見プロジェクトを実施 ・水辺の環境観察・調査活動への参加と水辺のガイド役を養成 ・水辺の体験学習プログラムの開発と参加の拡大 ・水辺の植樹や動植物の生息空間整備など自然環境再生活動の展開と市民参加 ・水辺の活動拠点「サポートセンター」の設置と拠点化

行政としての役割	これまでの取組及び	左の説明コメント	委員会からの評価コメント
・ 認証制度の広報展開や情報提供 ↓ 地場産品の認証状況について情報提供 ↓ 農産物についての基礎的知識の普及 ↓ クリーン農業への支援拡大	・ 減農薬米への支援推進 ・ 地産地消イベントの開催 (H21) ・ 滝川地産地消ふるさとづくり協議会の設立→地産地消認定店制度の創設 (H22)	○減農薬米の推進については、滝川農協などが、農業指導の一環として行っている。 ○地産地消イベントについては、市内及び市外への物産フェアに参加するほか、市内農業者の協力を得て、「たきかわ未来プロジェクト」と「地産地消ふるさとづくり協議会」が主体となり「軽トラ市」を開催。地元農産品の販売を中心とした産業振興に取り組んでいる。 ○地産地消ふるさとづくり協議会については、年に数回会議を開催し、地元特産品を活用した新商品開発などの取り組みを行っている。 ○地元レストラン等の協力により、地産地消料理教室の開催や、地産地消グルメフェアを開催するなどの取り組みを行っている。 ○地産地消認定制度については、現在、認定数3５店舗となっており、今後も引き続き認定店を増やすほか「地産地消」の周知拡大に取り組んでいく。	地産地消認定制度の認定店舗数については順調に増加しており、引き続き取組を続けるほか、この制度の周知を一般市民に対しても広く行う必要がある。
・ 学校や社会教育における食育の啓発 ↓ 地場食材の情報提供 ↓ 消費者と生産者の交流機会の創出・運営 ↓ 教育カリキュラムへの農業体験の導入拡大 ↓ 学校給食を通じての地場産農作物への理解向上	・ 親子農業体験塾 (H18以前) ・ 地産地消交流給食 (H18以前) ・ 減農薬米の販売 (H18以前) ・ 滝川産ナタネ油の生産及びブランド力の向上への支援 (H19) ・ 地場農産物販売拡大事業 (H20) ・ 滝川わくわく食育・エネルギー育教室 (H25) ・ 第2次食育推進行動計画の策定 (H24～H28) ・ 教育ファーム事業 (H24～H28)	○第2次食育推進行動計画に基づき、滝川市の基幹産業である農業を活用し、食の大切さや地元の食材に愛着を持たせるために、重点事業として子どもを対象に農業体験・地産地消・消費拡大などの推進をしており、食育に関する活動を行う事業の支援も行っている。こうした取組を進めていく上で、目標や課題を共有し家庭や地域・生産者・行政などの相互の協力と連携をしながら、効果的な食育の推進を目指している。	農業体験授業は、引き続き、教育・農業・経済などの各所管や民間団体等との連携を行う必要がある。

・ 森林の生態系に関する情報の提供 ↓ 森林保育の協働の場づくり	・ 石狩川ルネサンスの森植樹祭 (H13～) ・ 石狩川再生の森整備 (H15～) ・ 北海道植樹祭の開催 (H18)	○石狩川流域の河川環境を大切にし、地域固有の資源である川、自然、人、そして知恵や技術などを活かしながら、市民や企業、団体等と連携し、河川環境の保全と改善、川の自然体験学習活動、内水防水対策活動、流域の交流活動など、NPO法人まち・川づくりサポートセンターと連携しながら進めている。今後は、植樹後の市民の憩い場や維持管理などをいかに進めていくかが課題である。	民間団体との連携のもとで、更なる活動を期待する。
--	--	---	---------------------------------

・ 協働の仕組みを整える ↓ 住民理解を深める ●協働の仕組みを構築する	農地・水・環境保全向上対策事業 (H19～H23) 農地・水保管理支払交付金事業 (H24～H28)	○農地周りの農業用排水路等施設の老朽化への対応や集落機能の維持向上の観点から、地域主体の保全管理を促すべく、地域が協同により実施する農地環境や資源の保全管理活動等に加え、農地周りの農業用排水路等施設の長寿命化や水質・土壌等の高度な保全のための取り組みに対し、交付金を交付している。 今後に向けては、この事業の周知をどのように図っていくかが課題となる。	交付金を最大限に活用しながら今後もさらに地域の主体的取組を支えていく必要がある。
---	--	---	---

・ 森林の多様な機能に関する情報提供 ↓ 市民調査活動への支援 ↓ 公共林への調査活動の支援 ↓ 森の散策路の整備 ↓ 森のかがく活動センターの場の提供	・ 滝川遊学会事業における自然体験（～H23） ・ そらぶちキッズキャンプ実現化支援（～H23）	○そらぶちキッズキャンプに訪れることもたちのための安全な森のプログラムの開発や自然環境に配慮し、かつ趣向を凝らした特徴的な施設の充実を図るため、車いす利用者であっても容易に収穫体験が可能なユニバーサル農園や、自然木を活用したツリーハウスなどの整備を行ってきており、滝川市としても引き続き必要な支援に取り組んでいく。	民間団体への支援の手法なども含めて、今後の自然体験の在り方を再構築していく必要がある。
---	--	--	--

・ 河川管理者と連携して河川情報を提供 ↓ 河川環境の市民調査に対して支援	・ まち・川づくりサポートセンターの活動推進支援	○石狩川クリーンアップ作戦(石狩川築堤・ラウネ川)では、100名の市民がごみ拾いに参加するなど、一定の浸透が図られているが、今後もさらなる活動拡大のためのPRが必要である。	団体の活動については、ステップアップが図られており、今後も活動の拡大、充実に期待する。
---	---------------------------------	---	--

・ 活動の場の整備と提供 ↓ 活動空間に関する情報の整備と提供 ↓ 自然ガイドの派遣 ↓ 活動拠点の場の提供	・ まち・川づくりサポートセンターの活動推進支援	○たきかわ子ども水辺協議会(教育委員会・NPO・河川管理者)が「みんとち自然体験乗校」を設立して、身近な自然や川を題材に様々な体験活動を通して、環境問題に気付いたり環境保全への関心を高めたりすることをねらいに、春コース・夏コース・秋コース・冬コースの全4コースを開催した。今後も、3団体連携による着実な活動が行われるよう関係機関へ働きかける。 ○自主財源の確保が図られるよう関係機関や団体からの支援拡大を求めるとともに、ボランティアが育成できる環境づくりを支援する。 ○RAC(川に学ぶ体験)・CONE(自然体験)の指導者育成のためのリーダー育成を図り、指導者育成団体となった。今後は育成された指導者の活躍の場の提供並びに、関係機関への働きかけのサポートを行う。 ○「市民と歩むまちづくり、川づくり基本構想(滝川市)」に基づき、河川関連施設を訪れる市民をはじめ市内外の子供たちに、石狩川の豊かな河川環境を利用した体験型環境学習を通じて、一人ひとりが身近な河川環境を守ることの大切さを認識して行動できるよう学習事業を提供した。(体験型環境学習事業委託業務)	団体の活動については、ステップアップが図られており、今後も活動の拡大、充実に期待する。
--	---------------------------------	---	--